

令和8年度入学試験問題(後期日程)

総合問題 <都市経営学部>

(120分)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は全部で26ページあります。また、問題冊子とは別に解答用紙4枚(その1～その4)、下書き用紙(白紙)2枚が配付されます。
3. 解答開始後、すべての解答用紙指定欄に座席番号、受験番号、名前を記入してください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入してください。
5. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

IV 次の文章を読んで、後の問1～問3に答えなさい。

人口集中地区とは：設定の趣旨及び経緯

人口集中地区は、統計データに基づいて一定の基準により都市的地域を定めたものであり、次のような経緯から、昭和35年国勢調査以来各回の調査ごとに設定されているものである。

国勢調査の結果は、主として都道府県及び市区町村という行政地域を単位として集計・利用されており、このうち、市及び区はまとめて市部として、町及び村は郡部として、それぞれ都市的地域又は農漁村的地域を表すものとして慣用されていた。しかし、昭和28年の町村合併促進法及び昭和31年の新市町村建設促進法により、多くの町村が新たに市制を施行し、又は既存市に合併されるに至って、市部の地域内に、
① 性格の強い地域が広範囲に含まれるようになった。この結果、市部の地域は、その面積が著しく ② となった反面、人口密度は ③ し、統計上、「④ 地域」としての特質を必ずしも明瞭に表さなくなり、統計の利用に不便が生じてきた。

そこで総理府統計局(現総務省統計局)では、昭和35年国勢調査の際に、この「④ 地域」の特質を明らかにする新しい統計上の地域単位として「人口集中地区」を市区町村の境域内に設定し、これらの人口集中地区についても国勢調査結果を集計することとした。

出典：総務省統計局「人口集中地区とは」

(<https://www.stat.go.jp/data/chiri/1-1.html>) (一部改変)

問1 文章中の ① ～ ④ に当てはまるもっとも適切な語句を、以下の(ア)～(キ)の中からそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|----------|---------|---------|--------|
| (ア) 農漁村的 | (イ) 都市的 | (ウ) 広大 | (エ) 狭小 |
| (オ) 上昇 | (カ) 低下 | (キ) 定常化 | |

問 2 表 1 は、1960 年(昭和 35 年)から 2020 年までの、日本全国の人口集中地区に関するデータである。後の(1)と(2)に答えなさい。

表 1 全国の人口集中地区に関するデータ(カッコ内は単位)

年	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
	人口集中地区を有する市町村数	人口集中地区の合計人口(人)	人口集中地区の人口が全国人口に占める割合(%)	人口集中地区の合計面積(km ²)	人口集中地区の人口密度(人/km ²)
1960	763	40,829,991	44	3,865	10,563
1965	819	47,261,455	48	4,605	10,263
1970	911	55,996,885	54	6,444	8,690
1975	931	63,822,648	57	8,275	7,712
1980	973	69,934,854	60	10,015	6,983
1985	986	73,344,121	61	10,571	6,938
1990	1,002	78,152,452	63	11,732	6,661
1995	1,003	81,254,670	65	12,261	6,627
2000	976	82,809,682	65	12,457	6,647
2005	892	84,331,415	66	12,561	6,714
2010	829	86,121,462	67	12,744	6,758
2015	803	86,868,176	68	12,786	6,794
2020	793	88,285,927	70	13,250	6,663

(注) 以上の表は、総務省統計局「人口集中地区の概要」(https://www.stat.go.jp/data/chiri/map/c_koku/kyokaizu/pdf/r2_gaiyo.pdf)をもとに作成した。

- (1) 図 1 は、表 1 中の(ア)~(オ)の 5 つの要素について、それぞれ 1990 年を 100 とした相対値で示したグラフである。グラフ中の(a)~(e)が示す要素を、表 1 中の(ア)~(オ)の中からそれぞれ 1 つずつ選び、記号で答えなさい。

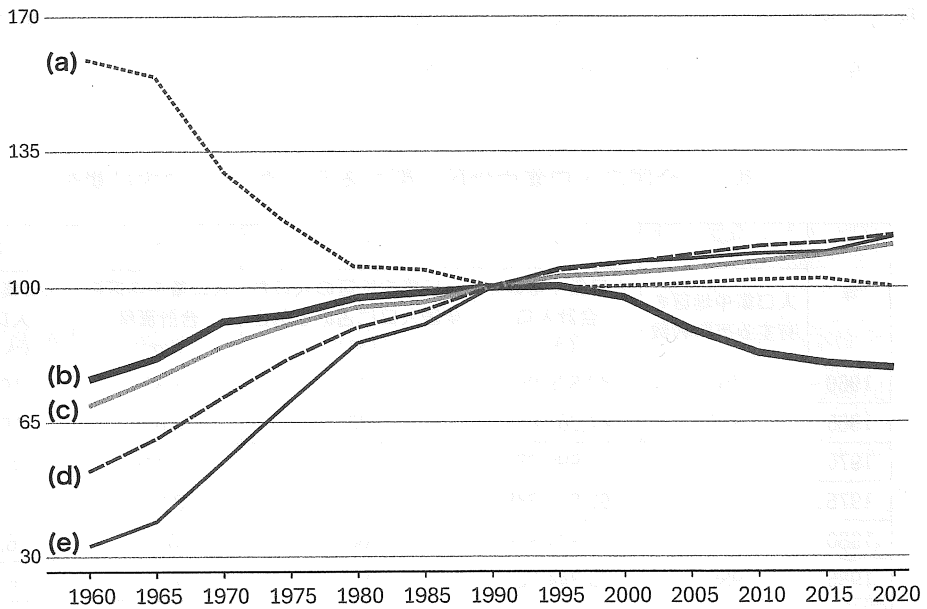


図1 表1の5要素のグラフ(1990=100)

(2) 表1について解説した次の文章中の ～ のそれぞれに当てはまる単語を、 は4字、 は2字、 は3字で、すべて漢字で答えなさい。また、 と に入る表1中の要素を、表1中の(ア)～(オ)の中からそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

1960年から1975年にかけて、高度 を背景とした農漁村部から都市部への人口移転が顕著となった。これが主な要因となり、人口集中地区の合計人口および全国人口に占める人口割合が増加した。

1965年から1980年にかけて、都市の において、大規模な団地やニュータウンの開発が盛んに行われた。これが主な要因となり、人口集中地区の合計面積が増加すると同時に、 が減少した。

2000年から2010年にかけて、地方分権の推進や行政の効率化などを目的とした、いわゆる「平成の 」が起こった。これが主な要因となり、 が減少した。

問 3 次の人口集中地区の設定の基準について書かれた文章を読み、後の(1)~(3)に答えなさい。

人口集中地区の設定に当たっては、国勢調査基本単位区及び基本単位区内に複数の調査区がある場合は調査区(以下「基本単位区等」という。)を基礎単位として、1)原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、2)それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有するこの地域を「人口集中地区」とした。

出典：総務省統計局「人口集中地区とは」

(<https://www.stat.go.jp/data/chiri/1-1.html>) (一部改変)

- (1) 以下の図2は、人口集中地区の設定に関する例である。線で囲われた部分がそれぞれ基本単位区を表し、かつ人口密度が4,000人/km²以上の基本単位区がグレーで塗られている。またそれらの基本単位区の人口は図中に書かれている通りである。図2について解説した次の文章の、 ~ に入る語句を、それぞれ「である」または「ではない」で答えなさい。ただし、複数の調査区がある基本単位区は存在しない。

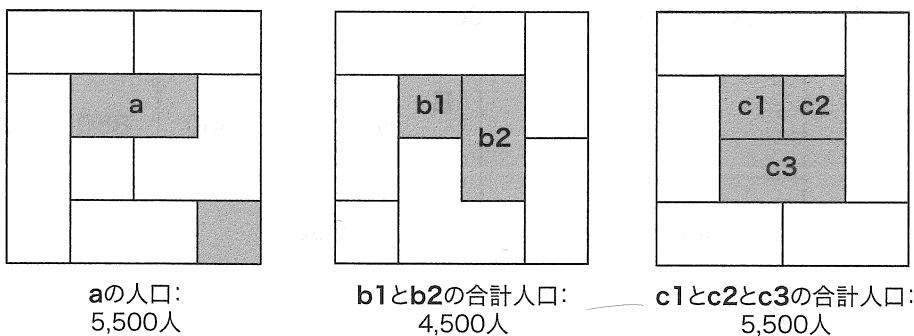


図2 人口集中地区の設定に関する例

基本単位区 a は、他の人口密度 4,000 人/km² 以上の基本単位区と隣接していない。よって基本単位区 a は、その人口に関わらず、人口集中地区 。

基本単位区 b1 と b2 は、それぞれ他の人口密度 4,000 人/km² 以上の基本単位区と隣接しているものの、その合計人口は 5,000 人より少ない。よって b1 と b2

は、人口集中地区 。

基本単位区 c1 と c2 と c3 は、それぞれ他の人口密度 $4,000 \text{ 人/km}^2$ 以上の基本単位区と隣接しており、かつその合計人口は $5,000$ 人以上である。よって c1 と c2 と c3 は、人口集中地区 。

- (2) 以下の図3は、2025年の山福市(架空)の国勢調査の結果を示した地図である。図中の線で囲われた部分はそれぞれ基本単位区を、その中の数値はそれぞれの基本単位区の人口を示している。また、すべての基本単位区は、1辺が250mのグリッド上にある。 図3について解説した以下の文の ~ に当てはまる数値を、単位に注意してそれぞれ答えなさい。ただし、複数の調査区がある基本単位区は存在しない。

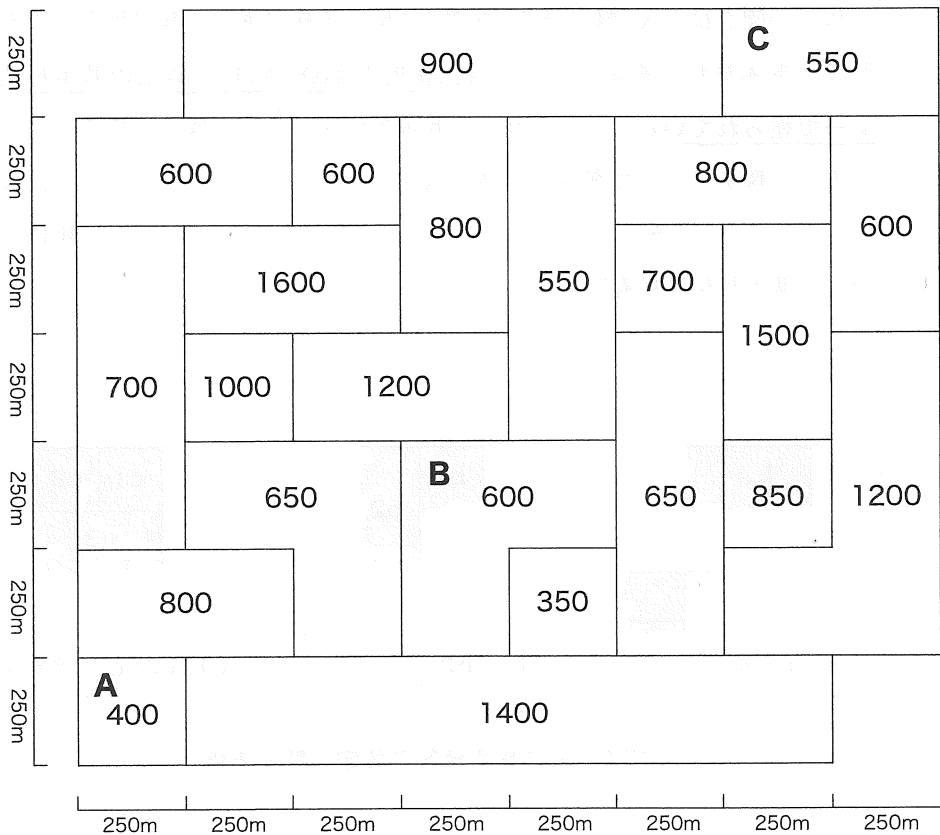


図3 2025年の山福市の国勢調査の結果を示した地図

基本単位区 A の人口密度は 人/km²、基本単位区 B の人口密度は 人/km²、基本単位区 C の人口密度は 人/km² である。

人口密度が 4,000 人/km² 以上の基本単位区は、全部で 個あり、そのうち人口集中地区に該当する基本単位区は、全部で 個ある。

2025 年の山福市の人口集中地区の人口は 人、面積は km²、人口密度は 人/km² である。

- (3) 解答用紙の図 A は、図 3 と同様に 2025 年の山福市の国勢調査の結果を示した地図である。図 A 中の人口集中地区に該当するすべての基本単位区について、以下の見本のように斜め格子を描き込むことで、2025 年の山福市の人口集中地区を図示しなさい。



(問題は以上です。次ページ以降は白紙です。)